

## 長沼町総合振興計画審議会 教育部会（第1回）議事概要

### 1. 日 時

令和6年11月22日（金） 16時55分～18時25分

### 2. 出席者

〔委員〕黒田部会長、相澤委員、安宅委員、下斗米委員、服部(ま)委員、水野委員

〔役場〕学校教育課～藤田参事、桂補佐、波川事務長

社会教育課～渡部課長、宮本補佐、朝田所長、高野館長

子ども育成課～坪田補佐

政策推進課（事務局）～栃本企画官、高田係長

### 3. 内 容

「5. 多様なひとと文化を育むまち」の項目を審議した後、全体について意見交換を行った。

### 4. 意見、質問等

【5. 多様なひとと文化を育むまち】

#### (3) 義務教育の充実

(委員)

「誰一人取り残すことのない教育」とは、具体的にどのようなことを指すのか。

(学校教育課)

全て子どもたち一人一人に合った教育を行っていくことを指し、不登校生徒への学習機会の提供なども含まれる。家庭の状況に関しては、保健福祉課との連携のもと対応していく。

(委員)

今後はリーディングDXを進めていく。これまでのように、先生が授業で板書する教育ではなく、生徒一人一人がタブレットを使って、まずは調べることから始める。先生は分からない子どもに助言をしつつ、みんなの意見をタブレットで共有していくような教育スタイルとなる。先生のスキルも必要だが、新しい学校の開始とともにスタートできるよう準備を進めている。

(部会長)

不登校生徒に対してはどうするのか。

(委員)

タブレットを持ち帰れば家でも学習内容が分かり、取り残さない教育につながる。

(委員)

我々の時代は、いじめなどにより不登校が続くと進級できなかった。今後はタブレットの

活用で進級も可能になるかと思うが、本当に取り残されないと言えるのか。いじめや登校拒否の子どもたち、子どもが親を介護するヤングケアラー等についても踏まえながら、福祉とも連携してほしい。

(部会長)

難しい課題だと思うが、一人でも多くの子どもたちを救えるよう、手探りで進めていくしかない考える。

(委員)

タブレットの活用は時代に合った良い施策だと思うが、計画内で具体的な内容には触れているか。

(学校教育課)

P 8 6 の 1) に記載している。道内でリーディングDXスクール事業に取り組んでいるのは札幌市、旭川市、長沼町、帯広柏陽高校のみである。

(委員)

まだ取り組んでいない町から転校してきた生徒は戸惑うのではないか。また、先生の指導案に影響はないのか。

(学校教育課)

最初は戸惑う可能性があるが、全国的にも総合的な学習の時間において、探究的な学習に取り組んでいることから、すぐに慣れると思われる。指導案への影響については、探究的な学習の過程を踏まえて組み立てていくことになると考えている。教育のDX化に取り組むことにより、ゆくゆくは働き方改革へつながっていくことも期待される場所。

(委員)

義務教育学校についてはP 8 3 に「令和9年度に開校することを目指します」と記載されているが、給食センターに関してはP 8 8 に「在り方について近隣市町村の動向も含めて検討する」としか書かれていない。

(委員)

生徒数が減っている中、新設するか、他市町との連携が可能かを見極める必要がある。

(部会長)

方針次第では、長沼高校への給食提供ができなくなるのではと心配している。

(委員)

これまでの説明会を聞いていると、町民の関心は義務教育学校、町民会館、給食センターに集まっていると感じるが、給食センターは検討でとどまっている。

(給食センター)

施設の改築については、給食センターだけでなく町内の他の公共施設も含めた中で優先順位を決定していくものであり、現時点で時期は明示出来ないが、今後検討を進める。

(委員)

自校方式はないのか。また、防災拠点機能はどうするのか。町民も関心を持っている部分であり、計画の中で一定の方向性を明示しておいた方がいいのではないかと。

(学校教育課)

自校方式は考えていない。近隣市町村の情報収集はしており、事務長中心に具体的な検討を進めていく。

(事務局)

総合振興計画は、公表している基本構想、基本計画のほか、適宜進捗状況を管理するために実施計画を作成している。公表資料内に記載できる段階にないものも、実施計画に盛り込んでチェック機能を働かせた中で確実に検討を進めていく。

#### (5) 社会教育・社会体育の充実

(委員)

P93のスポーツ施設に関してだが、北長沼スキー場も施設が古いので整備すべきでは。スキー学習の受け入れ強化と施設整備が必要と考える。夏場に使用されていないのも非常にもったいなく感じており、雇用創出や移住促進も見据えて検討してほしい。

(委員)

おっしゃるとおりで、老朽化が著しく、従業員が出来る限り対応して何とか凌いでいるところ。夏場の利用としては、キャンプ場としての実証実験を2年間実施したことがあり、それなりに利用もあった。ただし、夏場の利用を進めるためには条例改正が必要であるため、ぜひ検討してほしい。

(社会教育課)

スキー場の改修については、P90本文の終わり2行に記載しており、インフラ長寿命化計画を策定し老朽化対策を実施していく予定。

(スポーツセンター)

夏場の利用に関しては、貴重なご意見として拝聴する。

(部会長)

お金が稼げなくても投資すべき部分であり、どこかで必ずやらなければいけない課題。

(委員)

ぜひ前向きにお願いしたい。

#### その他 教育関係全般

(部会長)

生涯学習は、社会教育、学校教育、家庭教育の3つの輪が関わって成り立つものと言われているが、家庭教育の存在感が薄い。社会環境も変わってきている中でどのように取り組んでいくべきか、皆さんの考えを伺いたい。

(委員)

最近は、父母どちらも家事育児を行う前提での社会になってきていると思う。母親学級も父親学級も、より一層の充実を図るべき。

(委員)

教育委員会では父母向けのイベントに取り組んでいるが、問題は参加者をどうやって増やすかだろう。教育委員会だけが頑張っても、父母が来ないのでどうにもならない。PR方法や対象者の絞り込みなど、難しい課題。

(委員)

学校の参観日もあるが、平日は会社勤めで休めない方が多く、父親は来ていない。また、父親が行くといまだに奇異の目で見られることもある。育児や教育への父親の参加がもっと一般的になれば、子どもにとっても良いこと。

(社会教育課)

P82の1) 施策の内容にも記載しているが、引き続き生涯学習だより「まなびあい」を活用しPRを行っていく。町民の自主的な事業で町が後援しているものも60程度あり、町の後援が入ると広報無線や広報誌でのPRが可能となる。引き続き各種イベントへの参加促進に努めていく。

(部会長)

地域の実情を踏まえると、部活動の地域移行は難しそうだと感じている。

(委員)

中学校に部活がないので、孫たちは由仁や栗山など近隣市町へ出ているが、親の負担も大きい。

(社会教育課)

部活動に関しては、検討協議会の中で検討している段階であり、来年度末には結論が出る予定。総合振興計画の策定があと1年ずれていれば、それらを盛り込むこともできた。

(学校教育課)

岩見沢市の例だと、中学校9校の規模も様々であることから、学校間の体験格差をなくすため、拠点校の設置や共同での実施に取り組んでいる。少子化によりチームが組めない状況にもなっており、この件に関しては教員の働き方改革の話もあったが、それ以上に子どもの体験活動機会の確保として重要視しているところ。

※前日に実施された生涯学習推進計画策定委員会の結果を踏まえ、整合を図るため各課より記載内容の変更を提案

(3) 義務教育の充実

(学校教育課)

P86の1) 2行目「授業スタイルの統一」を「授業スタイルの確立」に、P86の2)

6行目「保持促進に自ら取り組み、」を「保持促進に自ら取り組む児童生徒を育てる」にそれぞれ変更したい。

(5) 社会教育・社会体育の充実

(社会教育課)

P92の1)5行目「町民の自主的・自発的な学習活動を支援するため、Wi-Fi環境を利用した、多様な学習機会の提供を図ります」に変更したい。

(6) 文化の振興

(社会教育課)

P96の最下段「それらを保管する施設を整備します」を「それらを保管する施設整備を検討します」に変更したい。

⇒全ての提案箇所について、委員・役場ともに異議なし。

## 【2. ひとと自然が共生するまち】

### (5) 緑化・花いっぱい運動の促進

(委員)

P47に記載されている花いっぱい運動が、本町区では大きな負担となっており、12区ではやめてしまったと聞いている。花農家は継続を希望していると思うが、植えて管理する側にとっては負担が大きく、やめるのも一つの手かと考えている。

(部会長)

北長沼は実施しているが、たしかに花植え、草取り、後片付け等大変ではある。

(委員)

植える花の数も減ってきている。若い人に参加してもらうことが難しく、植える時には参加しても、その後3回の草取りには出て来なくなり、結局同じ人にばかり負担が生じている。フラワータウン推進協議会としてもどう続けていくか検討しているところ。

(委員)

行政区の取組の仕方が重要かと思う。過去に実施されていた町の植樹祭のように、みんなでバスに乗って植えに行くなどすると気持ちが変わるかもしれない。

(委員)

花いっぱい運動から抜ける行政区が出てくると、うちの行政区もやめようか、という話になってしまい、組織の再編をしていかないと崩壊するおそれがある。良い取り組みだとは思いますが、どうつなげるかが課題。

(事務局)

P48の1) 施策の内容中にも、「時代に即した組織づくりを支援」と記載しており、体制見直しについても町として支援していく。

(委員)

行政区だけに頼るのではなく、職員、地域と一緒に進めることが重要と考える。

(委員)

当面はボランティアを集めなければ取り組んでいくのは難しい。温泉の通りは中学生が実施している。

(社会教育課)

町民の自主企画と同様に、広報無線なども活用しながら教育委員会としてもPRしていく。

(委員)

花いっぱい運動の継続・廃止はこの会議で決めることではないが、ぜひ検討をお願いしたい。

(委員)

行政区での継続が厳しいとなれば、教育委員会を交えて検討するのが良いと考える。

#### 【その他】

(部会長)

後日、気が付いた点があれば事務局へ連絡すれば良いか。

(事務局)

何かあれば、12月6日までに事務局へお知らせいただきたい。

#### 5. 総括

部会内での取り残し事項はなく、社会教育課及び学校教育課からの提案箇所について記載の修正を行う。

#### 6. 次回の部会開催

開催なし